



私の
**なんとか
しなきゃ!**

Vol. 50

PROFILE

1961年東京都出身。学生時代からバンド活動を始め、19歳の時にサルサと出会う。84年にサルサバンド「オルケスタ・デ・ラ・ルス」を結成し、90年にファーストアルバム「DE LA LUZ」で国内外デビューを果たす。南米ツアーなど世界的な活動が認められ、国連平和賞、文化庁芸術選奨文部大臣新人賞、New York 批評家協会賞など受賞歴多数。

幼いころから、いつも音楽がそばにある生活でした。バンド活動もやっていたのですが、一番興味があったのはやはり海外の音楽。スティービー・ワンダーが特に好きで、日本人が考えもつかないようなリズムが、それまで行ったことのない世界に連れていってくれるような気がしました。

その後の人生を導くサルサと出会ったのは、大学に入ってからです。サルサの本場といわれるニューヨークにお金をためて行き、国境も人種も何もかも超えてみんなが一体になれる歌と踊りのとりこになりました。念願かなって「オルケスタ・デ・ラ・ルス」としてデビューしてからは、日本国内だけでなく、南米を中心に世界各地をツアーで回っていました。最初は「日本人がサルサ?」という思いで足を運んだお客さんも、曲が始まった瞬間、一つになれる空間がそこにはありました。

海外ツアーではたくさんの出会いがありますが、20年前にペルーの首都リマからバスで3時間ほど行った町で出会った少年のことは今でもよく覚えています。ホ



テル近くのレストランに行こうと歩いていると、夜道に私たちをじっと見つめる少年がいたのです。とても裕福とはいえない身なりでしたが、そのキラキラとした目が気になって。聞くと両親は別の町に出稼ぎに行っていて、ごはんは教会で食べさせてもらっているとのこと。何を求めるわけでもなく、私たちがレストランにいる間もずっと外で待っていました。

次の日ライブが終わってホテルに戻って窓の外を見たら、その少年を含む数人の子どもたちが待っていて手を振ってくれました。私たちは日本からここまで来て好きなサルサができるけれど、そんな私たちのライブに足を運べない人がたくさんいる。胸が締め付けられる思いがしました。そんな子どもたちのために音楽を通じて何かできればという気持ちを、それからずっと持ち続けています。

その後、解散していた時期もあったのですが、あることをきっかけに再結成することになりました。2001年のアメリカ同時多発テロです。私とサルサを結び付けるきっかけとなったニューヨーク、このテ

ロの影響に苦しんでいる人たちの力になりたいと決意した時、サルサと一緒にやってきた仲間の力を借りるしかないと思いました。メンバーに電話をかけると二つ返事でOKをくれて、チャリティーコンサートを開くことができました。私たちの音楽を聞いてくれた人が、世界で起こっていることに少しでも目を向けてくれるのなら、これ以上うれしいことはありません。

「オルケスタ・デ・ラ・ルス」は、今年で結成30周年を迎えました。歌と踊りがあれば、言葉が通じなくてもつながり合うことができる。これはまさに、私たちがこの30年で体感してきたことです。これからも世界各地で日本人が奏でるサルサの魅力を伝えながら、国境を超えて人と人をつないでいければと思っています。

「なんとかしなきゃ!プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトやFacebookの専用ページを通じて、さまざまな国際協力の情報を発信していきます。

「なんとかしなきゃ」で 検索